



ホームページ・アドレス <http://www.shiga-bunkazai.jp/>
表紙：関津遺跡 中世港湾施設発掘調査風景

平成16年度調査埋蔵文化財展

財団法人滋賀県文化財保護協会
滋賀県教育委員会



レトロ・レトロ・レトロの展覧会 2005

ごあいさつ

琵琶湖と周辺の山々や大小の河川と平野などによって造られた美しく豊かな自然環境を持つ滋賀県は、日本のまんなかとでもいべき地理的環境によって、独特の文化を育んできました。

その文化の中で、私たちは、滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの運営や、埋蔵文化財の調査・研究・普及啓発などを行うことにより、滋賀県が持つ豊かな文化財の環境をよりよくするよう日々努めています。

毎年、夏に行っている「レトロ・レトロの展覧会」は、皆様に埋蔵文化財を広く知っていただくための事業のひとつで、今年は19回目になります。

この展覧会では、前年度に発掘調査で得られた成果を少しでも早く知っていただき、そして、出土した遺物にふれてもらうことや火おこしを体験してもらうことなどを通じて昔の人たちの生活に関心を持っていただければと思っております。

この展示が、文化財への理解を深めていただく助けとなり、また、歴史への興味を持っていただくきっかけとなって、その心が地域社会の未来を豊かなものにしてくれることを願っています。

財団法人滋賀県文化財保護協会



こんにちは！
滋賀県の新しい歴史を
ご覧ください。

シガタロウ君

今回登場する遺跡の位置



県内各地で
発掘調査を
行ってるよ。



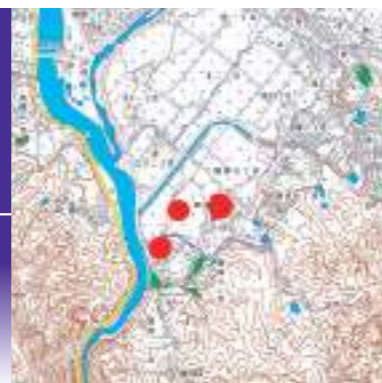
コラム

- P 9 整理作業が見学できます!!
- P 15 発掘調査を体験!!
- P 21 現地説明会を開催!!
- P 22 平成16年度財団法人滋賀県文化財保護協会事業報告

せきのつ 関津遺跡

大津市関津1丁目

古代からの瀬田川の水運の拠点



関津遺跡は、平成15年度からは場整備と国道建設（平成16年度から）に伴って発掘調査が実施されています。

平成16年度の調査でも、前年度に引き続き多くの発見がありました。

まず、中世末から近世初め頃（約400年前頃）に作られた護岸施設が見つかりました。

この港湾施設は、瀬田川水運の拠点であった「関津浜」という港に伴う施設と考えられ、当時の港の様子を伝える貴重な資料といえます。



見つかった港湾施設（施設に使用された木々などが、川の斜面に敷かれています。）



護岸の検出状況



護岸に使われた石

港湾施設の基礎は、直径10cm、長さ1m前後の杭を、1～2列に打ち込み、内側に最大径50cmもある松を横木として使用していました。

さらに、その内側の斜面には、土砂の流出や上に盛った土が滑らないように安定させるために、小枝を敷きつめる敷粗朶工法が用いられていました。

また、護岸の表面には、とても大きな石が構築材として使用されており、このことから非常に強固な施設であったといえます。



検出された掘立柱建物（たくさん見える穴が建物の柱穴）



墨書土器「丁」



〔監修 大津史 古代〕19 より転載、加筆

次に、藤原宮の造営や石山寺の増改築工事に際して材木を供給した田上山を管理する「田上山作所」に関連すると推測される奈良時代（8世紀）の施設が見つかりました。

それは、溝と柵に区画された中に、倉庫（総柱建物）を含む9棟の掘立柱建物が規格的に配置されています。

また、これらの遺構や周辺からは、須恵器や土師器などの土器類をはじめ、緑釉陶器やまつりに使われたと考えられる土馬などが出土しています。なお、出土した須恵器には「中」や「丁」と書かれた墨書土器、硯が含まれていました。

土馬・墨書土器・硯といった遺物は、他の遺跡での出土事例から判断しますと、公の施設で使われる遺物であると考えられ、この遺跡の性格を特徴付けるものといえます。

上：近江の杣（建築材を切り出す山林）と木材の運搬経路

右：溝から出土した土馬（土馬は、雨乞いのまつりなどに、使用されたと考えられています。）

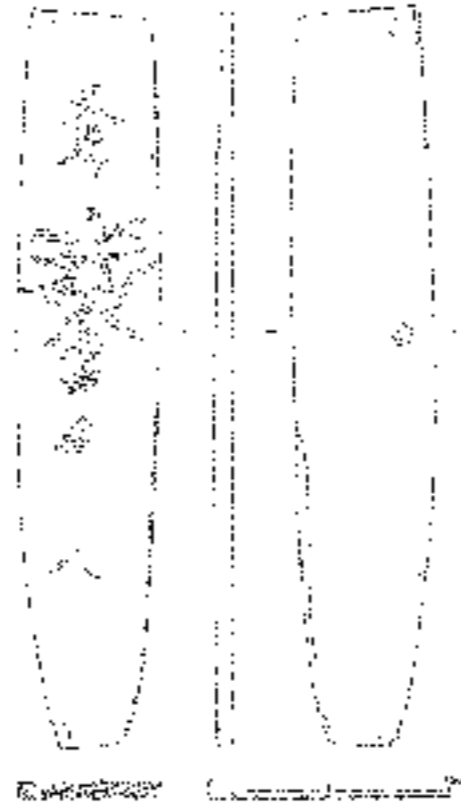


関津遺跡では、国道422号の改良工事に伴って発掘調査を実施しました。ここでは、沼状の落ち込みから鎌倉時代の木製品が多数出土しました。

その木製品の中には、悪霊を追い払い家族の幸せや安堵が訪れるように願って作られた呪符木簡、牛や馬に引かせて耕地を耕す犁、水田の中での作業時にはいた田下駄などが含まれていました。これらは、当時の生活状況を伝えてくれるだけでなく、残ることの少ない中世の木製品としても貴重な資料といえます。



呪符木簡 (写真)



呪符木簡 (実測図)

呪符木簡の表には、墨で呪文や鬼面などが書かれています。そして、上下端の釘穴（2個1対）から軒先や柱に打ちつけられていたと考えられます。



木製品の出土状況



出土した犁 (からすき)

あのうかいごめ
穴太飼込古墳群
 大津市穴太3丁目
古墳時代渡来人の墳墓と遺品



大津市北郊の錦織から坂本にかけての一带は、古墳時代後期（6世紀）になって盛んに作られる横穴式石室を備えた古墳が数多く分布し、その数は800基以上を数え国内でも屈指の古墳密集地です。

穴太飼込古墳群もそのひとつで、石室の天井がドーム状になっていたり、カマドや煮炊き用土器のミニチュア品が副葬されていたりすることなどから、朝鮮半島から移住してきた渡来人に関する人々が築いた墳墓と考えられています。

今回の発掘調査は県道の歩道建設に伴うものです。その結果、古墳時代後期後半（6世紀後半）の横穴式石室墳を5基確認できました。その中には昭和43年に県道本線部分の発掘調査で見つかった石室の続きにあたるものもあり、合計で15基を数えます。



1号墳



3号墳

奥が遺体を安置する**玄室**で、手前が通路の**羨道**です。

玄室の左半分に敷かれた石の上に木棺を置いたとみられます。



5号墳 玄室の床に副葬された土器が置かれています。



かみおおぎ 上仰木遺跡

大津市仰木4丁目



縄文時代の狩人達

県道建設に伴って発掘調査を行いました。

その結果、縄文時代の落とし穴や、石鏃（石のやじり）が発見され、当時の狩の様子を想像させてくれます。

右の写真で人が立っているところが落とし穴です。長径1m、短径60cm、深さ40cmの穴で、底には杭をそな据えつけた小穴があります。

落とし穴の北西側には水場状の地形の窪みがあることから、水場に集まってくるイノシシやシカを狙うためのものであったと思われます。



落とし穴に先を尖らせた杭を立てて使用時の様子を復元してみました。



左はチャートという硬くて鋭い石で作った石鏃です。右は石器を作る際に出る石のかけら（剥片）です。

その他には、中世（平安時代後期～戦国時代）にかけての建物跡や、土器類なども出土しました。

出土した遺物の中には、須恵器窯の存在を示す焼けひずんだものや製鉄の際に出るかすも含まれていました。周辺で生産を行っていたと考えられます。

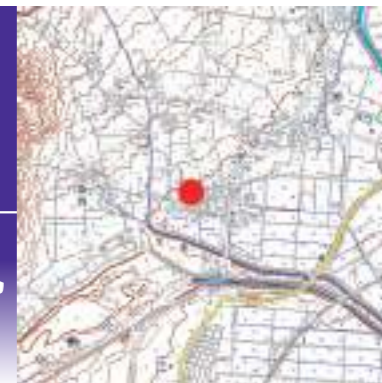


焼けひずんだ須恵器と窯の中で使う焼台



ごくらくじ 極楽寺遺跡

高島市マキノ町沢



弥生時代末～古墳時代初めの大型竪穴住居を発見

県道の建設に伴って発掘調査を行いました。

その結果、鎌倉時代（13世紀）の大溝や、古墳時代中期（5世紀）の竪穴住居1棟、弥生時代終末～古墳時代初頭（3世紀）の竪穴住居3棟が見つかりました。

弥生時代終末～古墳時代初頭の住居跡はマキノ町内で初めての発見で、この周辺での歴史のうつりかわりを知る上で新たな資料が得られました。



大型の竪穴住居が見つかった調査地の全景（北より）



大型の竪穴住居（弥生時代終末～古墳時代初頭：約1,700年前）（方形の白線内が住居部分で、内側にある丸い白線の部分が柱が建っていたところです。）

左の竪穴住居は、一辺9.5mの約90㎡（約27坪）もある非常に大型のものです。

一般的には一辺3～5m程度の住居が多いのですが、この住居はその4～10倍もの床面積があります。

通常よりも多くの家族で生活していたのでしょうか。

あるいは、単なる住居ではなくて、集落の人々が集う集会所のような建物だったのでしょうか。

直径2mで石を積み上げてつくられた井戸です。石積みが残っている部分の深さは3mで、全体の深さは4.5mあります。

井戸の中から遺物が出土しなかったため、正確な時代は不明ですが、中世ないしは近世に使われていたものと思われます。





ひろかわつくだ ひろかわみやのした 弘川佃遺跡・弘川宮ノ下遺跡

高島市今津町弘川

縄文時代～鎌倉時代のムラと墓

弘川佃遺跡と弘川宮ノ下遺跡は、饗庭野台地の北側を流れる今津川を挟んで東西に位置しています。都市計画街路の建設に伴って発掘調査を行いました。

今回の調査では、縄文時代後期の川跡や落とし穴状土坑・住居跡とみられる柱列、古墳時代後期の古墳・土器棺墓、飛鳥時代から平安時代にかけての竪穴住居・掘立柱建物、鎌倉時代の掘立柱建物・土坑墓などが発見されました。



縄文時代後期（4000年前）の川跡

縄文時代後期の川跡からは、多量の土器や石器が出土しました。

石器には、石斧や木の実をすりつぶす調理用具の叩き石・磨り石・石皿、狩りに使う石鏃（石のやじり）、漁網のおもりに使う石錘（石のおもり）などがあります。

川跡での遺物の出土状況からみると、調査地の南側の微高地に集落の中心があると考えられます。



川跡から出土した縄文土器



川跡の発掘作業風景



竪穴住居のカマド跡（煮炊きに使った土器が散乱しています。）

左の写真は飛鳥時代（7世紀前半）の竪穴住居です。

四角く掘り込まれた部分が生活をする場で、写真に写っている2棟は、南西隅に炊事用のカマドがつくりつけられています。

また、竪穴の壁ぞいからは土止め用の板材を据えつけるための溝と杭列の痕跡が残されていました。



土師器・杯の出土状況

整理作業が見学できます!!

このページで紹介している弘川佃・弘川宮ノ下遺跡の整理調査は、現在安土町にあります滋賀県立安土城考古博物館内で行っています。

そこでは、出土した遺物をきれいに洗って土を落とし、ばらばらになった破片を接合して元の形へと復元していく作業や、遺物の形を測り製図していく作業などを行い、調査成果を報告書にまとめます。

この作業の状況を、博物館の回廊展示として実際に見学していただくことができます。今年度から、博物館の開館日にあわせて土・日曜日・祝日にも整理調査を行っていますので、ぜひおこしく下さい。





けいうんかんていえん 慶雲館庭園

長浜市港町

甦った「植治」の庭



長浜市が平成15年度から実施されている慶雲館の復元整備に先立って、敷地内にある庭園部分の発掘調査を実施しました。

新春に行われる「盆梅展」などで広く知られている慶雲館は、明治20年（1887）1月に、明治天皇の行在所（休憩所）として、地元の有力者である2代目浅見又蔵氏により建てられたものです。

その慶雲館に、明治45年（1912）明治天皇行幸25周年を記念して造られたのが、今回発掘調査を行った庭園です。

庭園は、京都の南禅寺にある「無隣庵庭園」や平安神宮神苑、円山公園などを手掛けた近代日本庭園の先覚といわれる「植治」こと7代目小川治兵衛により造られました。



慶雲館庭園の全景（発掘調査後）

(P10.11の写真：長浜市教育委員会 掲載許可)



滝2（発掘調査後）

発掘調査の結果、この庭園の池が当初から水のない涸池であったこと、涸滝（玉石で流れを表現した滝）が造られていたこと、良好に残る護岸石組がさらに見つかれば石材の間には漆喰が充填されていたこと、石畳の園路が設けられていたことなどがわかりました。

このように、素晴らしい庭園が再び甦ったのです。



滝3上流付近（発掘調査前）



滝3上流付近（発掘調査後）

上に示した写真のように、発掘調査前には見えていなかった水の流れを示す多量の玉石が、滝の部分に残っていることがわかりました。



漆喰を充填した場所
玉石を敷いた場所

いりえないこ 入江内湖遺跡 米原市入江

縄文時代 漁師の無くし物



JR米原駅の南西に広がる水田は、かつては「入江内湖」とよばれる湖でした。

ここに、縄文時代から平安時代にかけての集落跡である入江内湖遺跡があります。

平成12年度から国道8号バイパス建設に伴い試掘調査・発掘調査が行われ、丸木舟など縄文時代から古墳時代におよぶ遺物が多数出土しています。

今回の調査では、縄文時代の釣針やヤス・石皿、古墳時代の木製農具や鉄鍬などが出土しました。



発掘状況
(現在の地表から約4m下に縄文時代の土層があります。)



川の跡から木器が集中して出土しています。

入江内湖は、陸地であった時期や水没していた時期がありました。内湖の土は砂礫を多く含んだ土層や、水分を多く含んだやわらかい粘土層が厚く堆積しています。

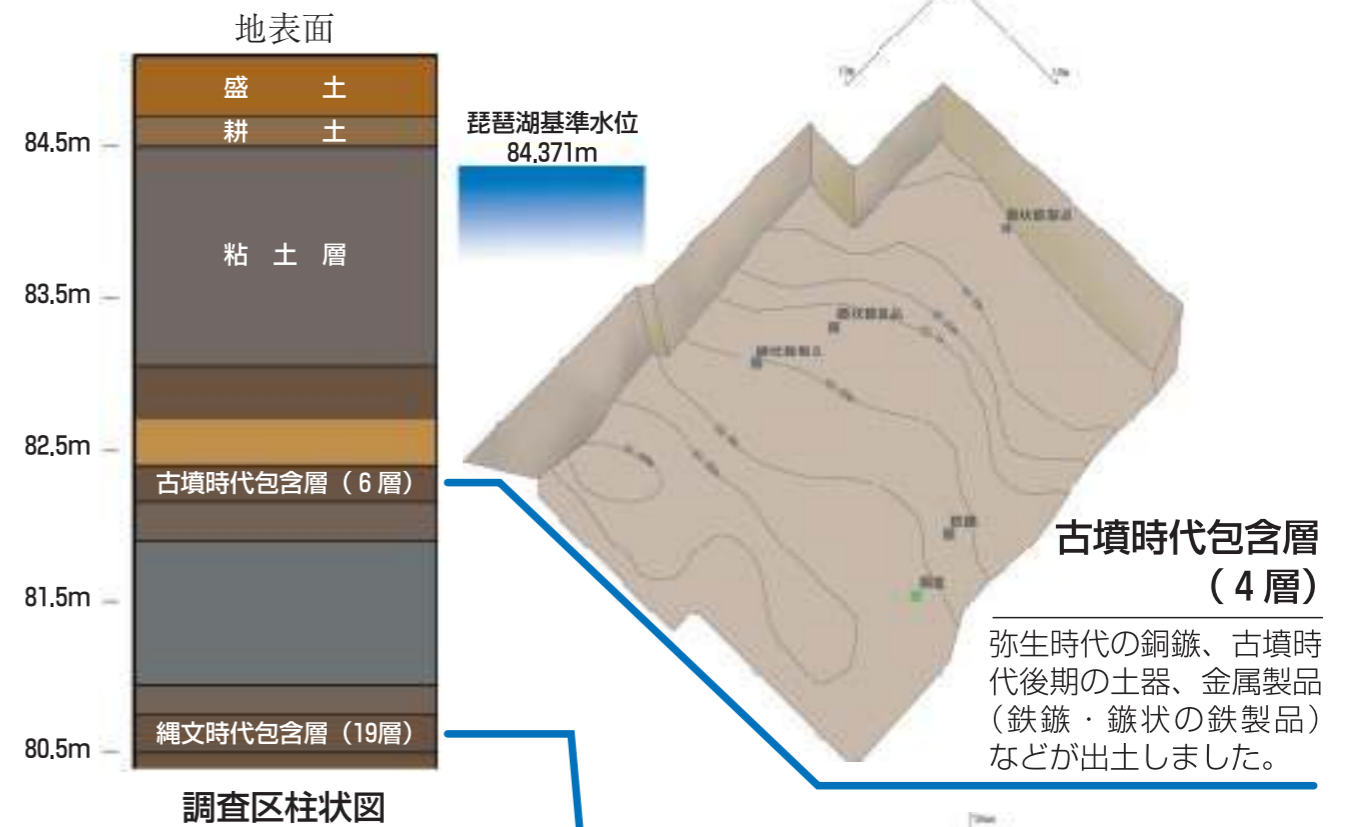
そのために、通常なら残りにくい木製品や鉄製品が良好な状態で保存されたのです。



縄文時代の土層（今から約4000年前）から出土した深鉢の破片です。



古墳時代の土層（今から約1500年前）から出土した木製の鍬です。



調査区柱状図

古墳時代の遺物が出土した深さは、地表から約3.2m、縄文時代の遺物は、約4.3mも低い場所でした。

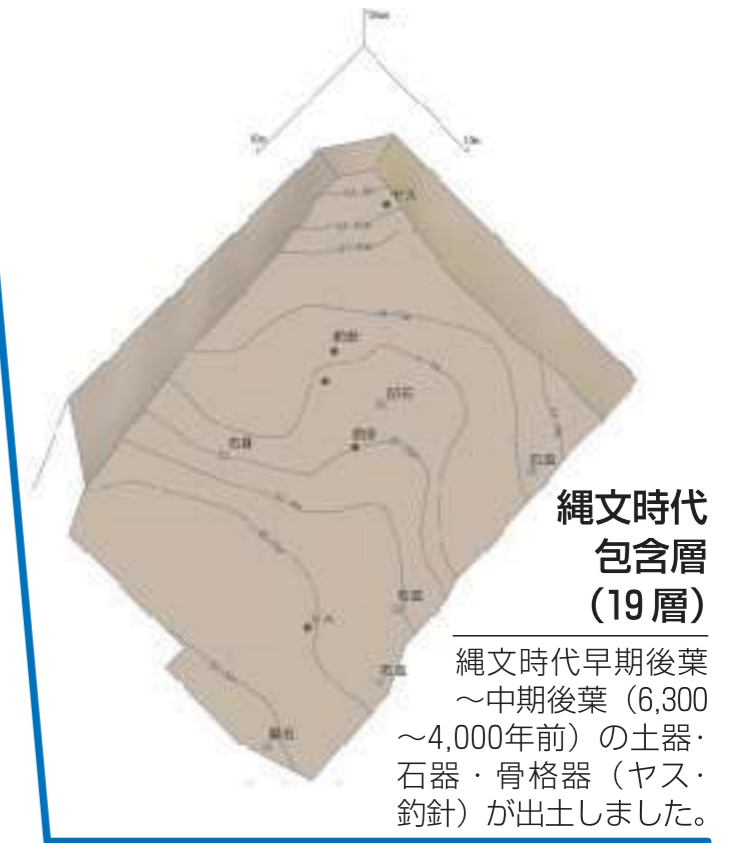
長い年月の間に、土砂が厚く堆積したのです。



古墳時代の鉄鍬



縄文時代の釣針



琵琶湖から遮断されている内湖は、水深が浅く波が穏やかなため、漁場や水運など湖畔に住む人々の生活の場として利用されました。

縄文時代の土層から、釣針やヤスなど漁業に必要な道具が出土したことは、古くから内湖を漁場として利用していた証拠といえます。



ゆうひがおかきた 夕日ヶ丘北遺跡

野州市大篠原

古代時代の道を発見



夕日ヶ丘北遺跡は、古墳時代の須恵器という焼き物を焼いた窯跡が多く分布する夕日ヶ丘と呼ばれる丘陵の北西端に位置します。

今回は農道建設に伴って発掘調査を行いました。

調査では、古墳時代後期（6世紀）の道路と考えられる遺構や、須恵器を作るために粘土を採った穴などが見つかりました。

焼きあがった須恵器をこの道路を使って運んでいたのでしょうか。



道路跡は道幅3mで、100mにわたって続いています。側溝を備えた道路遺構としては最古の例です。



道路側溝の底面が凸凹しているのは、掘ったときの鋤の跡とみられます。

左は道路側溝から出土した石製模造品（有孔円盤・剣形）です。

これらは、鏡・剣を石で模して小型に作ったもので、主に古墳時代中期～後期（5～6世紀）頃の祭祀（おまつり）で使われる道具です。

石製模造品は、長野県の神坂峠や福岡県の沖ノ島など、峠や海の道に関係する祭祀遺跡からもよく出土しており、今回見つかった道においても、これらを用いた祭祀が行われていたことが想像できます。



粘土採掘坑

長辺1～2m、短辺0.5～1.5m、深さ0.5m程度の穴が集中して発見されました。

これらの穴は掘りっぱなしで埋められていないことから、お墓の穴ではありません。

調査地近くの夕日ヶ丘丘陵には古墳時代の須恵器窯が多く存在することから、須恵器を作るための粘土を採掘した穴ではないかと考えています。



粘土採掘坑の遺物出土状況



粘土採掘坑から出土した須恵器

発掘調査を体験!!

右の写真は、夕日ヶ丘北遺跡で行われた地元の篠原小学校児童の発掘体験です。

参加した児童たちには、調査員から発掘調査の方法や注意点などを教わったのち、実際に移植ゴテなどの道具を使って掘ってもらいました。

土の中から、昔の人が使っていた土器の破片が見つかるといった面白さ、重い土を運びながら少しずつ掘っていく大変さなどを、感じてもらえたことと思います。



あかのいはま 赤野井浜遺跡

守山市赤野井町・杉江町

弥生時代の水辺のムラ



赤野井浜遺跡は、琵琶湖の環境整備工事に伴って、平成14年度から発掘調査を行っています。

昨年度の調査では、これまでに見つかっている川跡の北側に、弥生時代前期末～中期初め頃(約2,300年前)にあった集落が確認できました。



赤野井浜遺跡の遠景(琵琶湖の対岸には、湖西の山々が見えます。)



上：区画溝に囲まれた集落
(写真中央に写っている小さな穴が、建物の柱跡になると考えられます。)

右：見つかった遺構からは、多くの土器が出土しています。

確認された集落では、掘立柱建物や土坑などの遺構が見つかっています。

そして、それらの遺構を区画する幅3～5mの溝が見つかりました。

琵琶湖に近く、水分を多く含む地面を乾燥させ、住みやすくするために掘られたのでしょうか。



こうまえ 弘前遺跡

守山市赤野井町・矢島町

古墳前期の生活跡が見つかる



弘前遺跡は、琵琶湖岸から約1kmほど東側に位置する遺跡です。

これまでに発掘調査されたことはなく、今回はじめて農村整備事業に伴って本格的な発掘調査を実施しました。

調査の結果、古墳時代前期(4世紀)の掘立柱建物や溝・土坑、古墳時代後期(6世紀)の土坑、中世の耕作に伴う溝群などの遺構や、土器・石器などの遺物が出土しており、先の赤野井浜遺跡よりやや新しい時期の集落がこの周辺に広がっていたと考えられます。



蛇行しながら南北方向に伸びる古墳時代前期の溝
(幅約1.5m・深さ0.5～0.7mもあるしっかりした溝です。)



掘立柱建物
(左下の穴が柱の跡です。ここで見つかった建物は、床面積が約30㎡ありました。)



土坑の遺物出土状況
(土坑の底からは、木材とともに古墳時代前期の土師器・高杯が出土しました。)

たかのじょう 高野城遺跡

甲賀市甲賀町高野



滅びた中世城郭、その後は…

高野城は、高野備後守の居城とされる16世紀築造の山城です。

今回、第2名神高速道路建設に伴い発掘調査を行いました。

これまで城の実態は不明でしたが、広範囲にわたる調査の結果、土塁や郭・塹堀などが良好な状態で検出されました。

出土遺物には、残念ながらもともとの高野城に伴うものはほとんど出土していませんが、江戸時代の陶磁器が出土しました。



調査地全景（右上に、建設が進む第2名神が見えます。）



調査地全景（頂上に郭があります。）



城を攻撃された時に、敵兵の動きを遮断するために掘られた塹堀。



平坦面と道
(平坦面の奥に道があります。)

高野城よりのちの江戸時代のはじめに作られた平坦面と道です。
廃城となった城が地元でその後どのように使われたかを示す遺構です。



うえじょう 植城遺跡

甲賀市水口町植



戦国時代の城が今、甦る

植城は16世紀に活躍した山中氏の居城と推測される平地に築かれた城です。

調査地一帯には、土塁や堀が非常に良好な状態で残されています。

今回、農道整備事業に伴って部分的に発掘調査を行いました。

調査では、幅9m以上、深さ2.5mの大規模な堀と、生活空間である郭などを検出しました。



植城の全景



大規模な堀



検出した石列の下に、城の時代に掘られた屋敷地を区画する溝が見つっています。



現地説明会
(調査員のいるところが堀の底です。)

堀に埋まった土のなかから室町時代～江戸時代の陶磁器が出土しています。
そのほか、五輪塔の一部や銭貨（天寶通宝）なども出土しました。

おちかわ 落川遺跡

伊香郡高月町落川

落川遺跡は、JR高月駅周辺の整備に伴って発掘調査を実施しました。

調査の結果、飛鳥時代の竪穴住居2棟をはじめ、掘立柱建物・土坑・溝などの遺構が見つかり、それらの遺構からは土師器や須恵器などの遺物が出土しています。

竪穴住居



そうじじ 総持寺遺跡

長浜市宮司町

総持寺遺跡は、県道の整備に伴って発掘調査を実施しました。

調査の結果、中世に掘削されたと考えられる条里方向の溝(幅3.3m・深さ0.9m)などが見つかりました。

なお、溝は江戸時代に描かれた「小堀村総図」に見られる堀に一致することがわかりました。

溝



にしのまえ 西ノ前遺跡

近江八幡市倉橋部町

西ノ前遺跡は、県道の整備事業に伴って発掘調査を実施しました。

調査の結果、日野川の自然堤防上に営まれた鎌倉時代にあたる集落の存在が確認でき、それに伴う溝・土坑・柱穴などの遺構や黒色土器などの遺物が見つかりました。

調査地全景



りょうせんじ 霊仙寺遺跡

栗東市十里

霊仙寺遺跡は、県道の整備事業に伴って発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代前期末の溝や土坑、古墳時代前期の溝や柵、平安時代の掘立柱建物などの遺構が見つかりました。

また、遺構などからは、弥生土器・土師器・須恵器・石器などの遺物が出土しています。

発掘状況



ゆのべ 湯ノ部遺跡

野洲市西河原

湯ノ部遺跡は、県道建設事業に伴って発掘調査を実施しました。

調査では、古墳時代から近世の溝が3面の遺構面から見つかり、土師器・須恵器などの土器や木製品のほか、砥石などが出土しました。

発掘状況



おおしのはらにし 大篠原西遺跡

野洲市大篠原

大篠原西遺跡は、県道改築事業に伴って発掘調査を実施しました。

調査では、南北方向の溝や柱列・土坑などが見つかり、黒色土器・土師器・山茶碗・土錘などが出土しました。

発掘状況



現地説明会を開催!!

● 平成16年度は、7遺跡で9回の現地説明会を開催し、県内はもとより県外からも多くの方々に参加していただきました。

● これまで知られていなかった新しい歴史を実感していただけたものと思います。

● さて、今年度も私たちは県内各地で発掘調査を実施しており、できるかぎり多くの遺跡で現地説明会を実施したいと考えています。

● 現地説明会では、調査の時しか見ることのできない遺構や出土したばかりの遺物をまじかに見学していただくことができるほか、発掘調査を担当している調査員が調査成果について詳しく、また時には熱っぽく説明いたします。

● これまでに参加いただいた方、そしてまだ参加されたことのない方も、笑顔でお待ちしていますので、ぜひおこしください。



関津遺跡 現地説明会



弘川佃・弘川宮ノ前遺跡 現地説明会
(出土遺物の説明)

平成16年度 財団法人滋賀県文化財保護協会 事業報告

1 文化財施設の管理運営事業：滋賀県立安土城考古博物館・滋賀県立琵琶湖文化館・滋賀県埋蔵文化財センターの管理運営事業

① 滋賀県立安土城考古博物館 年間総入館者数48,536人

◎特別展示

- 春季特別展 「日は人作り、夜は神作り—前方後円墳の出現と展開—」
期 間 平成16年4月24日(土)～6月6日(日)
記念講演会 「倭王権の形成」 岡山大学名誉教授 吉田 晶氏
平成16年5月3日(祝)
博物館講座 「前方後円墳の出現と展開」 東海大学助教授 北條芳隆氏
平成16年5月16日(日)
「三角縁神獣鏡の系譜」 大阪市立大学助教授 岸本直文氏
平成16年5月30日(日)



滋賀県立安土城考古博物館 (春季特別展)

入館者数 7,220人

○秋季特別展 『戦国・安土桃山の造像』

- 期 間 平成16年10月9日(土)～11月14日(日)
記念講演会 「宿院仏師—戦国時代の南都仏師—」
奈良国立博物館上席研究員 鈴木喜博氏 平成16年10月24日(日)

入館者数 4,770人

◎企画展示

- 第28回企画展 「親子で楽しむ考古学4 影の戦士たち—近江と忍者—」
期 間 平成16年7月17日(土)～9月5日(日)
博物館講座 「甲賀忍者の実像に迫る」 甲賀忍術博物館長 柚木俊一郎氏
平成16年7月25日(日)
「甲賀の武士団と城」 大阪大学名誉教授 村田修三氏
平成16年8月15日(日)

入館者数 10,153人

○第29回企画展 (財団法人滋賀県文化財保護協会大規模調査成果展)

- 「謎の敏満寺を再現する—中世の寺・町・城—」
期 間 平成17年1月15日(土)～4月3日(日)
入館者数 6,694人
記念講演とシンポジウム
記念講演「中世の「寺」・「町」・「城」—敏満寺遺跡の謎を掘る—」
中央大学教授 前川 要氏



滋賀県立安土城考古博物館 (体験博物館)

シンポジウム「中世都市を掘る」

◎普及啓発関連事業

○博物館講座

- 「今城塚古墳の調査」 高槻市埋蔵文化財センター 宮崎康雄氏 平成16年9月19日(日)
- 「会津若松城と蒲生氏郷」 会津若松市教育委員会主査 近藤真佐夫氏 平成16年10月31日(日)
- 「激動の3世紀—神郷亀塚古墳と古代近江の対外交流—」 能登川町埋蔵文化財センター係長 植田文雄氏 平成16年11月14日(日)

- 「木製品の機能と美」 滋賀県立安土城考古博物館学芸員 阿刀弘史 平成17年1月23日(日)
- 「仏像の見方」 滋賀県立安土城考古博物館学芸員 山下 立 平成17年2月20日(日)

- イベント 体験博物館(年6回)・子ども考古学講座(2日間)・お茶会(年2回)・親子写生大会・親子で楽しむ写真撮影会・夏休み自由研究相談・ミュージアムコンサート・名作映画鑑賞会・クリスマス映画会・史跡案内

- 刊行物 年報・紀要・博物館だより「おおてみち」(年4回)・催しもの案内・展示図録など

② 滋賀県立琵琶湖文化館 年間総入館者数15,109人

◎特別展示「フェノロサ・天心の見た近江」

- 期 間 平成16年10月9日(土)～11月14日(日)
- 記念講演会 滋賀県立短期大学名誉教授 宇野茂樹氏 平成16年10月16日(土)
- 展示解説 10月30日(土)
- 入館者数 2,663人

◎企画展示 入館者数5,196人

- 「近江の文化財」 通年
- 「平成15年度滋賀県新指定文化財展」 平成16年4月9日(金)～4月25日(日)
- 「透彫—技法に見る美意識—」 平成16年4月27日(火)～6月6日(日)
- 「肖像の世界」 平成16年6月8日(火)～7月4日(日)
- 「神々のかたち—彫刻と絵画—」 平成16年7月6日(火)～9月5日(日)
- 「漆工の美」 平成17年1月4日(火)～2月13日(日)

◎テーマ展示 入館者数7,250人

- 「近世絵画による四季の彩り」 平成16年4月1日(木)～5月23日(日)
- 「動物画の世界」 平成16年5月25日(火)～7月4日(日)
- 「人物画の世界」 平成16年7月6日(火)～8月29日(日)
- 「狩野派の流れ」 平成16年8月31日(火)～10月3日(日)
- 「四季の花鳥画」 平成16年11月18日(木)～12月26日(日)
- 「屏風絵の世界」 平成17年1月4日(火)～2月13日(日)
- 「近江の画人」 平成17年2月15日(火)～3月30日(水)



滋賀県立琵琶湖文化館 (講座)

◎調査研究事業

- 紀要21号の刊行
- 市町村指定等の美術工芸品修復の監督指導
甲賀市甲賀町滝 元龍寺蔵 木造十一面観世音菩薩立像
近江八幡市加茂 極楽寺蔵 木造阿弥陀如来立像
- 文化財保存手当(燻蒸等)の指導助言
大津市西教寺 聖教類および仏像等の燻蒸等

◎展示資料管理事業

- 館蔵品・受託品の防虫防霉対策
- 経年劣化に伴う館蔵品の修理(絹本着色「飲中八仙図」1幅)

◎広報事業

- 刊行物 年間事業概要の紹介パンフレット・「浮城」第25・26号
- 広報活動 ホームページの開設

③ 滋賀県埋蔵文化財センター 年間総入館者数6,797人

◎常設展示

- 「くらしの考古学」 期 間 上半期
- 「出土品でたどる近江・滋賀県の歴史」 期 間 下半期

◎刊行物 「滋賀埋文ニュース」第289号～第300号(毎月発行)

- 「埋もれた文化財の話
琵琶湖の傍で暮らし始める～滋賀県の縄文時代～」第25号

◎資料収集・保管受入

- 発掘調査報告書等の受け入れ 1,678冊
- 図書資料閲覧件数 28冊
- 出土遺物(コンテナ数)の受け入れ 1,110箱

◎埋蔵文化財活用促進事業の実施

- ガイドブック作成と講演会などの共同開催
・「近江歴史探訪マップ」第3集・第4集
- ・清水山城館跡国史跡指定記念シンポジウム
「高島七頭と清水山城・城下～京・北陸・東海の狭間で～」
参加者数250人 平成16年9月20日(祝)
- ・体験バスツアー「高島七頭の城～元亀争乱・信長の軌跡をたどる～」
参加者数 40人 平成16年10月16日(土)
- ・山東・伊吹・米原リレー講演・探訪会
「城郭～近江中世城郭攻防史～」参加者数 90人 平成16年10月17日(日)
- 「街道・宿場」参加者数 50人 平成16年11月7日(日)
- 「山岳寺院」参加者数 80人 平成16年11月23日(祝)
- 研究会などの開催
・第83回滋賀県埋蔵文化財センター研究会 平成16年11月3日(祝)
テ ー マ 「作る 運ぶ 儲ける～生産・流通・富～」
会 場 ピアザ淡海県民交流センター(大津市)
参加者数 180人
- ・第84回滋賀県埋蔵文化財センター研究会 平成17年3月12日(土)
テ ー マ 「平成16年度滋賀県発掘調査成果報告会」
会 場 ピアザ淡海県民交流センター(大津市)
参加者数 350人
- 県有史跡地解説用リーフレット作成・リーフレット配布用ボックスの設置
対象文化財1 史跡近江国庁跡附惣山遺跡・青江遺跡
対象文化財2 史跡近江大津宮錦織遺跡
対象文化財3 史跡堂ノ上遺跡



滋賀県立琵琶湖文化館 (展示解説)



滋賀県埋蔵文化財センター (常設展示)



史跡近江大津宮錦織遺跡
(リーフレット配付用ボックス)

2 文化財保護基金の貸付事業

◎貸付実行総額 6件 28,600,000円

滋賀県・県内市町村・民間団体法人・企業・および個人からの出資金・寄付金をもとに、無利子で文化財保護・保存のための事業貸付を行う。

3 埋蔵文化財の調査・研究・保護に関する事業

◎埋蔵文化財調査などの受託

- 60件
- 発掘調査 20件
- 試掘調査 14件
- 整理調査 26件



左：整理作業(遺物接合)
右：整理作業(遺物実測)



4 文化財保護のための普及啓発事業 文化財に関する展示・講演会・シンポジウムなどの開催・刊行物の発行

①企画展示

◎平成15年度発掘調査埋蔵文化財展 「レトロ・レトロの展覧会2004」

期 間 平成16年7月17日(土)～8月31日(火)
場 所 滋賀県埋蔵文化財センター
入館者数 4,264人 (大人2,639人・子供1,625人)

◎大規模調査成果展 「謎の敏満寺を再現する—中世の寺・町・城—」

期 間 平成17年1月15日(土)～4月3日(日)
場 所 滋賀県立安土城考古博物館
入館者数 6,694人

記念シンポジウム 「中世都市を掘る」 平成17年3月6日(日)
記念講演 「中世の「寺」「町」「城」—敏満寺遺跡の謎を掘る—」 中央大学教授 前川 要氏
基調報告 「敏満寺遺跡の調査成果」 財団法人滋賀県文化財保護協会 中村 智孝
「石仏谷遺跡の調査成果」 財団法人滋賀県文化財保護協会 松澤 修
関連報告 「勝山平泉寺の調査成果」 福井県勝山市教育委員会 宝珍伸一郎氏
「日本史の中の敏満寺遺跡」 滋賀県安土城郭調査研究所 松下 浩氏
参加者数 190人



レトロ・レトロの展覧会2004



記念シンポジウム「中世都市を掘る」

◎JR湖西線西大津駅構内文化財展示 (年3回入れ替え)

- 「穴太銅込古墳群とその周辺」 平成16年5月21日(金)～9月10日(金)
- 「平成15年度発掘調査速報展・現地説明会情報」
平成16年9月10日(金)～17年2月2日(火)
- 「湖西の発掘最新情報」 平成17年2月3日(木)～5月27日(金)



JR西大津駅構内文化財展示

②刊行物

- ◎「文化財教室シリーズ」』No213～216
- ◎「滋賀文化財だより」』No294～299
- ◎「遺跡散歩マップ」』No15 守山市編
- ◎「紀要」第18号

③発掘調査現地説明会などの開催

- ◎夕日ヶ丘北遺跡 (野洲町大篠原) 平成16年6月19日(土) 参加者150人
- ◎関津遺跡 (大津市関津1丁目) 平成16年8月1日(日) 参加者150人
- ◎植城遺跡 (甲賀市水口町植) 平成16年11月3日(祝) 参加者40人
- ◎関津遺跡 (大津市関津1丁目) 平成16年11月13日(土) 参加者200人
- ◎極楽寺遺跡 (マキノ町沢) 平成16年11月21日(日) 参加者160人
- ◎上仰木遺跡 (大津市仰木町) 平成16年12月5日(日) 参加者60人
- ◎弘川佃・弘川宮ノ前遺跡 (今津町弘川) 平成16年12月12日(日) 参加者75人
- ◎慶雲館庭園 (長浜市港町) 平成17年1月22日(土) 参加者90人
- ◎関津遺跡 (大津市関津1丁目) 平成17年3月5日(土) 参加者90人

④資料提供

- ◎入江内湖遺跡 (米原町入江) 平成16年4月21日(水)
- ◎入江内湖遺跡 (米原町入江) 朝日新聞社「週間朝日百科」
平成16年5月10日(月)



遺跡散歩マップ No.15 守山市編

⑤文化財体験学習などの受け入れ

◎学校関係

- 草津市立南笠東小学校 (6年) 81人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・出土品での学習 平成16年4月30日(金)
- 大津市立瀬田東小学校 (6年) 134人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・出土品での学習 平成16年5月7日(金)
- 安土町立安土中学校 5人 調査整理課職場体験 平成16年6月2日(水)～4日(金)
- 大津市立瀬田東小学校 (6年) 134人 出土品での学習 (大津市教育委員会と共催) 平成16年6月30日(水)
- 草津市立玉川中学校 (2年) 2人 職場体験 平成16年7月6日(火)～8日(木)
- 安曇川町立安曇川中学校 (2年) 26人 今津町弘川常盤遺跡発掘調査体験 (今津町教育委員会と共催) 平成16年7月7日(水)
- 野洲町立篠原小学校 (6年) 37人 野洲町夕日ヶ丘北遺跡発掘調査体験など 平成16年7月8日(木)
- 滋賀県立国際情報高等学校 (1年) 2人 職場体験 平成16年8月10日(火)～12日(木)
- 滋賀県立守山養護学校 23人 出土品での学習 平成16年11月19日(金)
- 大津市立瀬田北中学校 (2年) 147人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・出土品での学習 平成17年1月19日(水)
- 滋賀県立石部高校社会歴史部 3人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学・出土品での学習 平成17年1月28日(金)
- 大津市立瀬田中学校 (1年) 5人 遺物整理/発掘調査体験など 平成17年2月9日(水)～10日(木)

◎一般

- 北3ふれあいサロン 16人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学 平成16年4月1日(木)
- 坂出市万葉を歩く会 28人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学 平成16年5月27日(木)
- 兼伊ワムラ興業ほか 16人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学 平成16年8月3日(火)
- 大津市仰木の里老人クラブやよい会 19人 滋賀県埋蔵文化財センター展示見学 平成16年9月17日(金)



安曇川町立安曇川中学校 体験発掘



滋賀県立国際情報高等学校 職場体験

⑥生涯学習等講座・講演会・各種研修会などへの出講

- ◎高月町立古保利小学校 社会科学習の講師 (歴史学習) 平成16年4月24日(土)
- ◎虎姫町教育委員会 生涯学習講座「浅井氏は戦国大名か？」 (参加者80人) 平成16年5月20日(木)
- ◎信楽町立雲井小学校 社会科学習の講師「紫香楽宮について」「新宮神社遺跡の発掘調査について」 平成16年6月11日(金)
- ◎甲賀町公民館・甲賀町郷土史会 文化財講座「紫香楽宮関連遺跡群の発掘調査成果報告」 (参加者100人) 平成16年9月17日(金)
- ◎栗東市教育委員会・(財)栗東市文化体育振興財団 調査研究報告会 (参加者50人) 平成16年9月25日(土)
- ◎三方町縄文博物館 縄文講座「琵琶湖周辺の縄文遺跡」 (参加者60人) 平成16年11月6日(土)
- ◎滋賀県母親大会分科会 遺跡案内「近江国府・青江遺跡・惣山遺跡」 (参加者50人) 平成16年11月7日(日)
- ◎滋賀県レイカディア大学「琵琶湖の水運と湖底遺跡」 (参加者240人) 平成16年11月19日(金)
- ◎NPO 瀬田川リパブレ隊 出前講座「関津遺跡について」 (参加者30人) 平成16年12月4日(土)
- ◎坂本学区まちづくり協議会「市民と語る湖西の古代」 (参加者400人) 平成16年12月5日(日)
- ◎高月町教育委員会 生涯学習講座「瓦か語る近江の古代史」 (参加者30人) 平成16年12月9日(木)
- ◎野洲市歴史民俗資料館 発掘調査スライド報告会「夕日ヶ丘北遺跡の発掘調査」 (参加者20人) 平成17年3月13日(日)



草津市立玉川中学校 職場体験



信楽町立雲井小学校 社会科学習

『平成16年度調査埋蔵文化財展 レトロ・レトロの展覧会2005』平成17年(2005年)7月

編集・発行/財団法人滋賀県文化財保護協会 大津市瀬田南大萱町1732-2 電話: 077-548-9780・FAX: 077-543-1525
印刷・製本/大津紙業写真印刷株式会社 大津市月の輪1丁目9-33 電話: 077-544-0190・FAX: 077-543-1460

